乙貞

第147号 通 巻26 第2号 2006年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel · Fax 077-585-4397

T 524-0212

守山市服部町2250番地

発掘調査だより

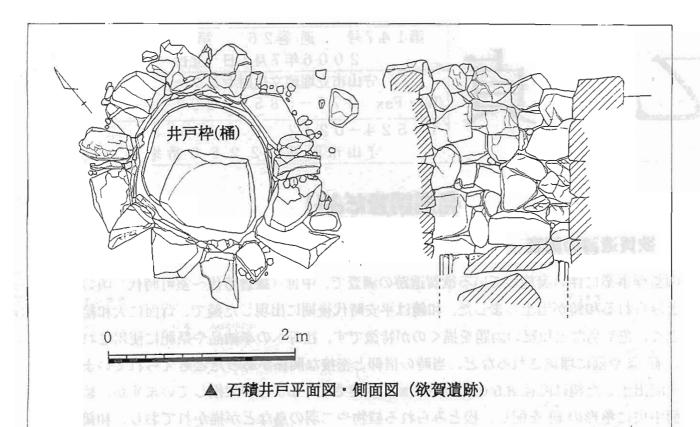
1. 欲賀遺跡の調査

区画整理事業に伴い実施している欲賀遺跡の調査で、中世(鎌倉時代〜室町時代)頃のものとみられる和鏡が出土しました。和鏡は平安時代後期に出現した鏡で、背面に大和絵のごとく、花や鳥など和風の画題を描くのが特徴です。社寺への奉納品や祭祀に使用された他、経塚や墓に埋納されるなど、当時の信仰と密接な関係があったと考えられています。今回出土した鏡は直径 8.5 cm、厚さ 1 mmの大きさで、1/3 程が欠損していますが、鏡の背面中央に亀形の一般を配し、松とみられる植物や一羽の鳥などが描かれており、和鏡の特徴をそなえています。6 月 23 日に遺構検出中に見つかったもので、年代など詳細については現在調査中です。

また、石積の井戸も見つかっています。一辺 20~40 cm程の石を直径約 1.5mのドーナツ状に積み上げたもので、現状で5~6 段が確認されています。さらに内部に桶が設置されていますが、一辺 50 cmもある大きな石が桶の中に埋まっているため、井戸底は確認できていません。残存状態は良く、井戸の構造を知る上で貴重な資料です。この他、中世の経済が群や井戸、屋敷を区画する溝などから、土師器皿や 塔 烙、信楽焼の饗・擂鉢、瀬戸焼の鉢、瓦質の火鉢など 14 世紀~15 世紀代の土器が多く出土しています。 (小島)



▲出土した和鏡(写真はほぼ原寸大)



2. 下之郷遺跡 59・60 次調査 東京田田 金剛 東京日本 東京 東京 東京 東京

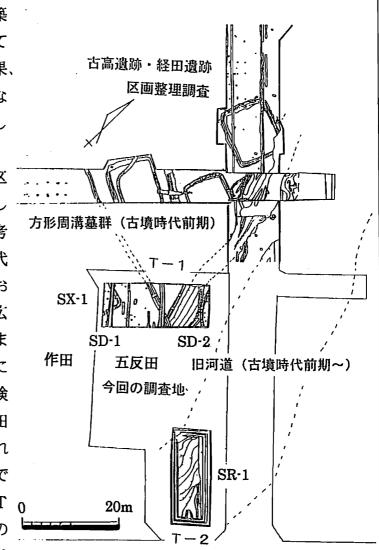
下之郷遺跡の東端で確認調査を実施しました。その結果、現在の地表約25cm下から、弥生時代中期後葉の大溝3条と土坑、柱穴などが検出されました。大溝の規模は幅約3~5m、深さ約1.5mもあり、集落の縁辺に掘られた環濠と推定されます。これまでの調査では、3条の環濠が遺跡の東側で確認されていましたが、今回さらに3条の環濠がその外側に掘られていることがわかりました。 (川畑)



3. 焰魔堂遺跡8次調査

今宿町字五炭笛にて、共同住宅建築 に伴い5月初めから6月初めにかけて 発掘調査を実施しました。調査の結果、 芳形周溝墓1基と溝、ピット(柱穴な ど小さな穴のこと。)、旧河道を検出し ました。

方形周溝墓(SX-1)はT-1区 の西で検出しました。周溝から出土し た土器から古墳時代前期頃の築造と考 えられます。周囲の調査でも古墳時代 前期の方形周溝墓が4基みつかってお り、この時期の墓群がさらに南側に広 がっていることが確認されました。ま た、SX-1を壊して現在の地割りに 沿った鎌倉時代の溝(SD-1)を検 出しています。この溝は、小字五反田 と作田の境界の水路付近から検出され ていることから、坪界に関係する溝で はないかと考えられます。さらに、T o - 1区の東では古墳時代後期の大小の 溝がみつかりました。特にSD-2は 幅約4m、深さ2mもある大溝で、そ の性格が注目されます。



▲焰魔堂遺跡8次調査遺構全体図

T-2区では旧河道(SR-1)を検出しました。断面観察から旧河道は何度も向きを変えながら流れていた様子がわかりました。中でも、調査地をちょうど南北に走る川筋の砂礫層から、ほぼ完全な形の古墳時代前期の壷が出土しました。 (森山)

4. 伊勢遺跡 101 次調査

このほか、弥生時代後期の竪穴住居も1棟(SH-1)見つかっています。この住居は、 壁際に掘られた周壁溝が五角形状に巡り、南東辺中央の壁際に貯蔵穴、さらに中央に炉が 配置されるなど、五角形住居の特徴をもっていることがわかりました。住居の年代は床面から出土した土器から、弥生時代後期後葉と推定されました。昭和59年に隣接地で五角形住居が見つかっていますが、その住居が廃棄された後、この五角形住居がつくられたことがわかりました。

伊勢遺跡東半部には大型建物が集 中していますが、遺跡北西部には五 角形住居が多く営まれていたことが わかります。 (伴野)



調査中

この他、播磨田城遺跡 と長塚遺跡で、現在調査 を実施中です。詳細は次 号で報告したいと思いま す。



| 大田町 | 大